

シンポジウム 「芸道論の今日」

日時	10月24日(土) 13:00 - 17:00 (開場は 12:30)
会場	京都工芸繊維大学 60周年記念館 1 階ホール
	市営地下鉄烏丸線「国際会館」行きに乗車(京都駅から約 18 分)「松ヶ崎駅」下車、徒歩約 10 分
主催	科学研究費 (A)「日本における「美術」概念の再構築ー語彙と理論にまたがる総合的研究」 (研究代表者：山崎剛金沢美術工芸大学教授)
協力	科学研究費 (B)「近代京都の美術工芸についての総合的研究ー制作・流通・鑑賞の視点からー」 (研究代表者：並木誠士京都工芸繊維大学教授)
主旨	日本でも「美術」移植以前に、その実践や創作への考察は深められていた。これら芸道はその実践とともに今に引き継がれている。西洋美学とは成り立ちを異とする芸道論に改めて目を向け、その独自性と意味を考えたい。まず、本共同研究がこの分野に関わる根拠を示し、さらに、今日的な実践者からの発言を聞くことによって、我々の依って立つべき地歩を確認したい。これによって、改めて歴史的、国際的な視野から日本における芸的な思考を考察し、研究により実り豊かな展望を切り開きたい。(森)
	[前座] 12:30 開場 13:00 趣旨説明 山崎剛 13:10 - 13:40 並木誠士「道具から美術へー問題提起としてー」 13:40 - 14:40 森仁史 (金沢美術工芸大学柳宗理デザイン研究所所長) 「移植された美術ー基盤としての芸道」 [中入] 14:50 - 15:50 芸道トークセッション 15代樂吉左衛門 (陶芸)、金剛永謹 (能楽) インタビュアー 森仁史、並木誠士 [幕間] 15:45 - 16:00 休憩 [幕閉] 16:00 - 16:30 コメント 稲賀繁美 (国際日本文化センター) 16:30 - 17:00 討議